

多自然川づくり取り組み事例

<b>タイトル</b> : 初崎堤防工事における文化的景観に配慮した護岸構造の工夫	
<b>水系/河川名</b> : 渡川水系/四万十川	<b>河川分類</b> : 大河川
<b>河川の流域面</b> 2186km <sup>2</sup>	<b>整備計画流量</b> : 13400m <sup>3</sup> /s(W=1/30) <b>セグメント</b> : 2-1
<b>事業</b> : 河川改修	<b>事業開始年度</b> 平成26年度
<b>目標設定</b> : なし	<b>段階</b> : D(実施・施工時)
<b>課題・目的(主な)</b> 自然河岸、河畔林の保全・再生・創出	
<b>工法(主な)</b> : 築堤	
<b>配慮事項(主な)</b> : 河川景観への配慮、歴史・文化への配慮	

背景・課題、目標設定

<背景>

初崎堤防は河口に近く、荒天時には水際に近い県道が波をかぶり、晴天時においても波浪の高いときは直近にある港の防波堤を波が超える環境であり、さらに、東南海・南海地震で発生すると想定されている津波(TP+約7m)では、背後地家屋は浸水する環境である。このため、無堤部対策として堤防整備が早急に必要区間となっている。

<課題>

初崎地区は山に囲まれた中に初崎港、県道、民家、小港、タブノキ群落などが集中し、設計に際しては、治水機能を向上させる洪水・高潮・津波等を考慮した構造とすのに加え、文化的景観を有するタブノキ群落、県道343号、初崎港及び高知県指定の航路などの周辺環境・景観にも配慮した護岸構造を保持した上で極力自然環境に近い景観による整備が求められた。

<目標>

- 四万十川下流域に関する景観関連計画に配慮した計画(①、②)とし、土堤部・特殊堤部の構造を決定した。
- ① タブノキの巨木は初崎地区のシンボルであり、重要文化的景観を残しているため、保全が望まれることから、部分的に消失するタブノキ群落については、移植・保全を実施する。
  - ② 堤防構造については、四万十川流域の自然石を使用した石張りパネルとし、四万十川らしさを持つ、堤防景観を確保する。

取り組み内容・対策例

**■土堤構造（コンクリート被覆式）における配慮事項**

**採用工法**  
1)厚さ約50mm、重量約2tのコンクリートブロック+波状しべを使用する。① ②  
2)コンクリートブロック張り構造とする。①  
3)コンクリートブロック上面に、自然石を埋め込む構造とする。①

**採用工法**  
1)天端は、コンクリート張りとする。③  
2)覆土ブロックとする。④  
3)ブロックの上に覆土し、自然植生の回復を図る。

**■特殊堤（コンクリート重力式）における配慮事項**

**採用工法**  
1)重力式擁壁タイプの特殊堤+波状しべとする。  
2)化粧型枠(残存)又はプレキャスト式練石積みとする。① ②  
3)化粧型枠又はプレキャスト式練石積みを型枠代わりとして施工する。

**採用工法**  
1)重力式擁壁タイプの特殊堤とする。  
2)化粧型枠(残存)又はプレキャスト式練石積みとする。③  
3)化粧型枠又はプレキャスト式練石積みを型枠代わりとして施工する。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

■タブノキ群落の保全



■景観に配慮した構造



備考

問い合わせ先 四国地方整備局 中村河川国道事務所 工務第一課  
電話番号 0880-34-7304